

人生は交響曲 ～幼少期に受けた影響～

全日本幼児教育連盟会長 元洗足学園音楽大学客員教授
マリンバ奏者 **藤井むつ子**



人生は交響曲 ～第3楽章 50歳から75歳まで、
第4楽章 75歳以降～についてお話ししましょう。

話は少し前後しますが、30歳の頃、勉強のためリサイタルを開きたいと思いました。しかし探してみると自分の演奏したい曲がないのです。これはマリンバという楽器がクラシックの独奏楽器として認知されてからまだ歴史が浅く、作曲された作品の数も他の楽器に比べると桁違いに少ないためです。ですからリサイタルやコンサートの度に新曲を発表し、これまでに初演したオリジナル曲は全部で92曲となりました。

マリンバオリジナル作品を増やすための活動の中で特に印象に残った「石井眞木」作品についてお話しします。1987年10月にリサイタルを企画し、その2か月前に作品が出来上がってきました。よく見ると、A3の最後2ページが黒い音符で埋め尽くされていたのです。この難解パターンは、練習する以外に方法はないと思い、主人に相談し、2人の娘を実家の母にお願いして、1日10時間練習を計画しました。そして、2か月目は12時間練習に取り組み、当日のプログラムの全曲を何とか間に合わせることができました。石井眞木作曲「飛天生動Ⅲ」という曲が、この世に出現した瞬間でした。以後約20年間弾き続けるうちに今では世界で行われるマリンバコンクールの課題曲にもなりました。演奏表現はそのコンサートにかけける思いが強ければ強いほど終わったときの解放感も大きく、作品と共に今生きていることの素晴らしさを味わうことができるのです。

このような活動や洗足学園音楽大学で教鞭をとっていた頃、父の創設した全日本幼児教育連盟と株日本総合音楽研究の組織は、埼玉県川越市の本拠地と、全国に7か所の支部を開設していました。全国各地で「おんたいフェスティバル」と「ミュージックフェスティバル」を開催し、音体教育システムで育まれた子どもたちによるマーチングや日本太鼓・器楽合奏などの成果発表会を保護者と共に行い、その指導をする先生方の二泊三日の宿泊講習会を行ってきました。特に私の担当したライセンスコースでは、先生方の真剣な向き合いに、試験官の私もスタッフも指導技術を身に付けて帰っていただくため、睡眠時間を削って切磋琢磨したことは、古き時代の実話

となりました。

このような取り組みの全ては、「日本の子どもたちに本物の指導を」という連盟前会長の指導方針の元に「先ず指導者自らが勉強し、子どもたちにその姿を見せることが一番大事です」と実践を重ねました。音楽と体育を主体とした「音体教育」またの名を「たたずまい教育」の普及に力を尽くし、父は独自の発想から始めた幼児教育法を教本にまとめ上げ、最初は一人で北海道から沖縄まで全国を行脚し、また台湾や中国にも指導に出かけていきました。そして、私も父の鞆持ちとして、1984年から約8年間、日本の各地を訪れて、子どもたちと共にパチ遊びや打楽器アンサンブル・器楽合奏の指導を行いました。

子どもたちが頑張ったご褒美に、マリンバで楽しい曲を弾いてあげると、透き通った2つの目がこちらを向いてキラキラと輝くのです。こんなに美しい目は見たことがありませんでした。2022年10月、全日本幼児教育連盟創始者、前会長畠山國彦が逝去しました。

2023年4月、子どもにしかない素直な心に音楽の感動と本気の指導を少しでも伝えられたらと第2代目会長を引き継ぎました。第4楽章は始まったばかりです。これからは若い保育者の皆様との出会い、そして子どもたちにマリンバを弾いてあげることが楽しみです。世界中の子どもたちの目がいつまでも輝くように祈りながら。



プロフィール

藤井むつ子 (ふじい・むつこ)

東京藝術大学附属高等学校、東京藝術大学器楽科卒業。

1997年「パムジーク国際音楽コンクール」マリンバ部門第二位及び全部門中準優秀賞受賞。

海外11カ国で日本人作曲作品(協奏曲・室内楽)による演奏会を行い、19校の音楽大学では、マスタークラスとソロコンサートを行う。初演曲は92曲に及ぶ。

2009年PASIC(国際芸術打楽器協会)のショーケースアーティストに招聘。その後「国際マリンバフェスティバル」「国際音楽祭」など多数出演。2024年10月カナダトロントにて「現代音楽の夕べ」2025年3月のサンフランシスコ「子どものためのコンサート」に出演。

全日本幼児教育連盟会長・マリンバ奏者・元洗足学園音楽大学客員教授。